

# 地域とともにある学校

魅力ある学校づくりを目指して

<校訓>

樹の如く伸びよ 星の如く輝け

<学校教育目標>

自律する人間 共創する人間 錬磨する人間

2017/06/27 (火) 発行

校長通信 NO.4  
北海道日高高等学校  
町田英謙

## 全道定体連を終えて

圧勝の日勝支部の定体連の予選から、バスケボール部とバドミントン部が全道大会の出場を果たしました。6月17日(土)、18日(日)バスケボール部は江別高校、バドミントン部は札幌西高校で開催され、各支部の強豪校との対戦となりました。私はバスケボールに応援に行きましたが、1回戦東藻琴高校に(54-36)勝利、2回戦では大通高校に惜敗し(50-78)、全道入賞は来年度へバトンタッチされました。

バドミントン部は釧路湖陵高校に(2-1)勝利し、札幌月寒高校には敗退(0-3)しましたが、全道三位の偉業を成し遂げました。個人戦では、小林、柴田ともに2回戦敗退でしたが、本当に頑張ってくれたと思います。

この経験は選手は勿論のこと、これからの人生に必ず活かしてゆく経験だと思います。選手皆さん、普段から指導して引率していただいた先生、そして、部活動を支援してくれている保護者の方々に、改めて感謝の気持ちを持ってください。

## 『こもれび祭』に向けて

高校生活の最大行事である学校祭(『こもれび祭』)を控えて、生徒会執行部を中心に準備されています。

今回は、第12回目、テーマ「愛は日高を救う」となり動き出しました。地域の方々や保護者との学校成果を公表する機会として、生徒達と全教職員で協力して頑張ってください。

## 新しい時代の高大接続

昨年12月に中教審においてとりまとめられた「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」答申され、高大接続改革の方向性が示されました。

高等学校教育について、①学習指導要領は、何を教えるかではなく「どのような力を身に付けるか」の観点に立明か、指導内容に加えて、学習方法や学習環境についても明確にしていく観点から抜本的に見直す。②従来、教える内容について記述していたものについて、育成すべき資質・能力の観点から構造の見直しを図ると共に、課題発見や解決に向けた主体的・能動的な学習・指導方法であるアクティブ・ラーニングの飛躍的充実を図ること。③高等学校教育の質の確保・向上を図る観点から、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」を導入すること。

大学教育において、個々の授業科目を超えて教育課程全体としてのカリキュラムマネジメントを確立すると共に、アクティブ・ラーニングへと質的に転換すること。このため、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)の策定・明示を法令上位置づけること。

大学入学者選抜について、①現行の大学入試センター試験を廃止し、大学で学ぶための力のうち、特に「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を導入し、各大学の活用を推進すること。②各大学における個別選抜については、学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を踏まえた多面的な選抜方法を取るものとする。③大学にとって改革のインセンティブとなるような財政措置等の支援を行うこと。アクティブ・ラーニングが、教育改革のキーワードとなってきた。大学のみならず、小・中・高等学校の学習指導要領についても、アクティブ・ラーニングなど学習・指導方法の改革が重要な要素になりそうです。理由は大きく二つあります。

一つは、学ぶものが主体的に学ぶことが出来れば、一方的な教え込みよりも教育の成果が大きいからである。自ら

学ぶ意欲が乏しい我が国の子供には、グループで話し合い、調べて考えて発表させ、また、体験的な活動を通じて、学びの面白さを感じさせ、知的好奇心を刺激することが有効です。もう一つは、予測困難な時代となり、答えのない問題に取り組むことが出来る専門的知識や汎用能力が必要であり、また、解決策を見つけるには協働作業が求められ、そのための表現力や協調性が必要となっています。このような能力を身に付けるため、アクティブ・ラーニングが重要となっています。

アクティブ・ラーニングの転換を進めるに当たって注意すべき点は、知識量のみを問う「従来型の学力」では不十分で、旧来の考え方を改め、新しい時代にふさわしい教育に変えなければなりません、それが全てではありません。基盤は、基礎的・基本的な事項の徹底による知識や技能となります。従来の指導法の全否定をすべきではありません。主体性、多様性、協働性さえ身に付けては良いものではありません。知識偏重を脱することは、知識軽視ではありません。

アクティブ・ラーニングには本物の知識修得が伴わなければなりません。アクティブ・ラーニングは、一時的、暫定的ではなく、継続して行い、授業外の活動につなげる必要があります。発表は一生懸命やったが、学び、考える習慣が備わらないのでは困ります。アクティブ・ラーニングは、学力伸長の手段です。生徒が何を得たか、成果をしっかり評価すると共に、人格形成にどこまで寄与できたかまで見極めていくことが、重要です。

## 全道高P連の報告

6月10日(土)、11日(日)の2日間、滝川市で第67回全道高P連大会が行われました。

高P連は北海道教育委員会、高等学校校長協会、高P連、当番支庁が主催となって実施し、学校を取り巻く地域・保護者の連携のため、関係者が集まっておこなわれる研修の場です。

全道各地のPTA会長や役員、校長先生が学校課題解決に向けた保護者と教職員の連携方法や他校の優れた実践について研究協議してきました。残念ながら本校の会長は所用で欠席となりましたが、次年度の帯広大会に向けて課題を共有していきたいと思ひます。



## 早寝早起き朝ごはん運動推進委員会の報告

日高管内が推進している「早寝早起き朝ごはん運動」があります。この推進事業を確認する委員会が、6月20日(火)に門別総合市民センターで開催されました。

今回、①辞令交付、②平成28年事業評価及び平成29年度事業計画、③日高町早寝早起き朝ごはん運動推進委員会について、④第2次社会教育中期計画について積極的な協議の中、これからの推進事業について決定しました。

## 編集後記

早いもので新年度が始まり3ヵ月を終えようとしています。月末には期末考査、来月は学校祭「こもれび祭」、一段落すると夏休みとなります。年度当初から様々な学校課題がありましたが、教職員の皆様のご協力で素晴らしい学校状況であると思ひます。今年度はこの布陣で協働していきますが、今後も生徒達のためにお互いに連絡連携を密にきて、健康安全に留意しながら頑張っていけることを祈念しております。

今後とも、学校運営に教職員の皆様のご活躍されますことを期待して、校長通信第4号の結びと致します。